令和6年度

第2回　富士特別支援学校富士東分校学校運営協議会（報告）
防災教育推進のための連絡会議

1　日　時　　令和6年9月 27 日（金）午前 10 時から正午まで

2　参加者

⑴　学校運営協議会委員（敬称略）

上村　一成（元特別支援学校長）
鈴木　修　（特定非営利活動法人くらしえん・しごとえん　代表理事）　欠席
船津　裕子（船津クリニック　薬剤師）
佐野　勝　（青葉台町内連合会　連合自治会長）
熊谷　仁　（富士東高等学校　副校長）
髙橋　美喜（富士東分校　PTA会長）

⑵　教職員

髙田　宗享（校長）
鈴木　耕輔（副校長）
岩附　敦史（部主事）
杉澤　陵太（教務課長）
仁藤　正訓（防災担当）

3　次　第

⑴　校長あいさつ
⑵　校内参観
⑶　作業学習班の説明、質疑応答
⑷　前期学校評価報告
⑸　協議、質疑応答（会長）
・「富士東分校の良さを活かした連携づくり」
～「主体者」としての当事者意識を育む～
⑹　防災教育推進のための連絡会議

【議事録】

1　校長あいさつ

・　開校2年目を迎えて、様々なチャレンジがみられる。1つ1つの取組が打ち上げ花火ではなく、全てがつながっていく取組でありたい。生徒たちに役立っているか、そんな視点を持つには常に、外部の目が必要である。本会では学校評価についても取り上げる。皆さんとよりよい学校作りをしていきたい。

2　校内参観

・　2年生
職業科「校内実習」

・　1年生
自立活動「スケジュール管理」

3　作業学習各班の説明、質疑応答

・　クラフト班、メンテナンス班、農耕班の3班より、それぞれ代表生徒によるプレゼンテーション

・　高等部主事
プレゼンテーションの内容、発表方法は生徒オリジナルのもの。私たちは機会と手段を提案したのみ。生徒の可能性を再認識した。

・　A 委員
それぞれの発表に感動した。限られた時間の中で、伝えたいことがコンパクトまとめられていて、内容が分かりやすかった。さすが上級生、昨年度よりも成長した生徒たちの姿を感じる。

4　動画視聴

・　今年度の取組（富士東高校との共生・共育、地域での学習）

5　前期学校評価報告（副校長）

・　令和6年度　富士東分校　前期学校自己評価を報告

6 協 議

【 富士東分校の良さを活かした連携づくりについて ～「主体者」としての当事者意識を育む～】(司会:A委員)

・ A委員

今年度2回目の学校運営協議会となる。前回の5月から、生徒の活躍が手に取るようにわかる。その中で今回のテーマは、生徒たちが主体的に学校を創っていくこと、東分校の良さを活かした連携づくり、「主体者」としての当事者意識を育む。である。限られた時間であるが、皆さんと協議していきたい。

・ 高等部主事

前期学校評価の【育む】の「主体的」「主体者」「自治的能力」の項目の評価が全体の中では低かった。富士東分校の生徒は素直で人の気持ちを思いやれる、和やかな雰囲気の中で着実に成長している一方で、自分たちで学校や生活を創っていきたいという気持ちや態度を見せる生徒が少ない。また、不満に対しては自分たちで解決していこうという姿勢や、何事にも受け身になることが多い。これについては、教員が先回りをしているといった問題意識を持っている。資料にあるような生徒総会を軸に学校経営を提案していきたいと考えている。先ほどの作業班紹介のように、生徒たちが自ら考える機会を与えていくことで、生徒たちは自分なりに考え取り組んでいくのではないか。

＊資料「主体者」としての当事者意識～エージェンシーの育成～の説明

『 主体者 』 としての 当事者意識 ～ エージェンシーの育成 ～

資料

□ **生徒総会 を軸にした学校経営**

生徒会を中心に、生徒全員が意見を出し合い、自分たちで考え、意思決定をしていく。

▶決めたことに責任をもち、自分たちで課題解決をしていくという当事者意識を育成する。

(自治的能力の発揮、主権者意識の形成)

生徒総会で決定したことについては、正当な意見として最大限尊重しなければならない。その上で、教職員間で実現の可能性や教育的効果、社会的不利益などを十分に協議し、最終的には校長判断のもと決定する。

■なぜ、必要なのか？(背景となる根拠)

「主体性」の重視：学習指導要領 H30、令和の日本型学校教育 R3、生徒指導提要 R4 等

主体性：自分自身で考えて、**意思決定をして取り組む**こと。自分で意思決定をするからこそ、**責任は自分にある**と捉えられる。

自主性：何をやるべきかを理解していて、**指示を受ける前に自分から取り組む**こと。先生が求めていることを想定して行動しているので、**責任は先生にある**と捉えている。

「主体者」としての意識の低さ：R6前期 学校評価アンケートの結果より

学校評価アンケートの結果、特に評価が低かった2項目

⑤生徒が**主体的に**生徒会活動に取り組み、**自治的能力**が高まっている。

⑨生徒が**「主体者」として成長**を実感し、今後について考えることができる。

▶主体者として、**自治的能力を発揮する機会が十分に提供できていない**ため、主体者としての**意識も育っていない**

富士東分校だからできる改革風土：新しいことに挑戦し、成長しようとする学校風土

開校2年目の新設校だからこそ、過去の固定観念に囚われず、新しいことに挑戦していきたい。

生徒、教職員ともに**新しいことに挑戦し、自らを成長させようという向上心の高い集団**である。

■内容・方法

学校のきまり（明記されていないルールも含む）について、学校主導のものではなく、生徒主体のものに改訂をしていく

①学部集会にて「生徒総会」を中心とした学校運営の仕組みについて説明
②生徒会役員が生徒総会の実施日や協議内容について検討
③意見箱等を活用し、事前に意見を集約
④生徒総会の実施
⑤生徒総会での協議内容や決定事項をもとに教職員で検討
⑥検討結果を学校運営に反映

※決定したことの責任の所在は生徒全員にあることを認識させて、問題が生じたときには、生徒会を中心に生徒たちで課題解決に向かう。

- 教務課長
  インスタグラムの立ち上げについて。生徒・保護者の要望、学校としての情報発信の必要性が重なり、主体者としての当事者意識を育む一つの取組として、生徒主体でインスタグラムの開設の準備が整った。インスタグラムアカウント運営の目的（誰に向けて、何のために）も生徒、教員で共有している。生徒、教員でインスタグラムを運用していきたい。

- E 委員
  インスタグラムで、#検索をかけてもヒットするものは100未満。浸透されていない。先日の富士・富士宮地区の PTA の会合でも、認知度の低さを痛感した。開校から1年半で、発信力は高まっているが実情は、まだまだ富士東高校の中に知的障害を持つ子が通う分校ができたことは知られていない。
  放課後等デイサービスを運営する中でも SNS を通して、利用者の希望があったり、求人・採用につながるケースも増えている。特に実習先や進路決定に関する情報発信があると保護者は強く興味を持つと思う。また、高卒認定を考慮して、通信制の高校を希望する保護者も多い。富士東分校に入学するメリットにコミットできていないことも考えられる。大手の企業で職場実習をすることで、そういった機会を持つことができる良さを親として感じている。これを発信してほしい。口ではなく、目で見る情報として、良い発信をしていきたい。近くにいない方々に、こういう実習があって、こういう風に社会が見えること、こういう実績があることを、情報が新しいうちに発信していくとよい。

- A 委員
  分校の本当の良さ、分校の今の旬の良さを知ってもらうツールとなってほしい。分校の良さを発信するためには、本当に分校っていいの？と問い直す意味でも、生徒が主体者となって、自分たちの分校を動かしていく、創っていく。そのために何が必要かを協議していく。

・　D 委員

富士東高校でも受け身の姿勢でいる生徒が多いように感じている。一方で富士東高校のポリシーにも「主体性」というキーワードが入っている。
どんな場面に主体性を見出せるかと考えると、授業場面では自分で決めていく場面を作らなければならない。例えば5分間のグループワークをしていて残り1分となった時に、つい教員は「あと1分だから早く結論を決めなさい」と指示を出してしまう傾向がある。それでは結論を決めることに対するリアクションとなる。「あと1分しかないけど、どうする？」と声をかければ、生徒のリアクションの幅や考え方は広がる。声かけ一つで変わっていく。指示ではなくで、「どうする？」というキーワードで、主体性を発揮させる場面を準備していくことを富士東高校でも実践していると考えている。
もう1つは、自信がないから、一歩踏み出せない。という場面もある。僕はこれならできるという自己肯力感を育てるのに何が一番効果的か？それには直接体験（できたという思い、できそうだという思い）が重要である。これに関しては富士東分校には多様な場面があると感じている。

・　A 委員

学校は授業時間やカリキュラムが決まっている。それに合わせようとしてしまうところがある。先生たちの言葉かけ1つから立ち止まって見つめ直すことも必要である。自信のなさ、最近の若者の心のもちようについて問題提起したい。

・　B 委員

人生は自己決定の連続である。学校の中で自己決定ができる場面があるかどうかは、環境に左右される。特にその子の周りにいる影響力のある人の態度がとても大切である。アメリカの教育の方針として「be diffrent!!」「違う存在であれ」が浸透している。日本はアベレージを求めてしまう。『普通でいよう、普通にしよう』となりがち。その意味で主体性は、一人一人の違いを知ること、自分との違いを発見することだといえる。視野を広げるためにそれが1番である。
主体性を考えると、違いを知ることが自己肯定感や自己効力感を上げていく。そして、先生たちが見本を見せないという姿勢。私たちは課題を与えると、ついヒントを与えてしまう。例えば人の顔を描くといったとき、「目がある、口があって…」と伝えてしまう。そうではない。違いがあっていい。
学校の決まりについては、まずは先生たちが本音で話し合う。語り合うことが必要ではないか。自由に自分の考えを発言する。そういった姿を生徒にも見せていく。時間はかかっても、生徒が自分の考えを言えたということが、成功体験につながっていく。成功体験が自分の考えを広げていく学校はそういう場であってほしい。特別支援学校だからこそ、できると期待している。

・　A 委員

直接体験ができること、影響力のある人との出会い、そう考えた時に「地域」と分校の関わりは大切であると思う。地域に分校を伝える中で心がけていることは？

- C 委員
  地域と学校の関わり、この地区に分校ができたことを地域として本当に嬉しく思う。どのようにして学校と関わりを持てるかは常に話題にあがる。そんな中、1年目から地域に溶け込んできてくれた。その大きなきっかけが地区の文化祭である。文化部長から総合司会を分校に依頼をしようかと相談を受けた。ステージ発表も同様であった。快く引き受けてくれたことに感謝している。それから、クラフト製品の販売でブースを設けた。完売した時に　喜んでいた生徒の姿が忘れられない。総合司会も立派に勤め、無事に終えた後の安堵感の表情から、地域の一員になってくれたと実感したのを覚えている。行事を乗り越え、生徒たちも一回り大きくなったと聞いている。その意味で、地域も力になれたのではと感じている。また、まちづくりセンターとの関わり（清掃や階段アートの活動）にも非常に感謝している。毎月の会合では、富士東分校の生徒が活動していることについて発信している。しかし、実際には地域に富士東分校があることを知らない人もいる。今後も地域とのつながりを広げていきたい。

- A 委員
  会合の度に生徒の活躍を報告してくださっていることをありがたく思う。
  地域への発信、分校を知ってもらう意味でも、SNS（インスタグラム）の活用につながればよい。インスタグラムは年齢層によっては慣れていない部分もある。上手く使っていくことが必要。

- E 委員
  インスタグラムと Facebook が連動されるとよい。Facebook と連動することで地域に根ざした団体とのつながりも生まれやすい。

- D 委員
  富士東高校ではインスタを始めて3年。3000 人以上のフォロワーがいる。その他にも、X、Thresa、を運用しているが圧倒的にインスタのリアクションが大きい。発信内容に対してアクティブユーザーの多くに届いている印象がある。

- A 委員
  インスタの制限、県との連携も含めて学校として上手に運用していってほしい。子供達が主体者になるには「自分がやったことが、かたちになって表現されること」「やったことで学校が変わった、そんな実感を持てること」「大きなうねりを作るのは大切だが、それに乗り切れない生徒たちも見ていくこと。一人ひとり違うので、取り残されている子たちを救っていくこと」それらを複数の教員でケアをしていってほしい。

7　防災教育推進のための連絡会議

・　富士東分校の取組(防災担当、教務主任)

1　ねがう姿

・緊急時に自分がとるべき対応が分かり、命を守る行動ができる。

・発災時には自助共助の一員として救助活動を行える知識を身につける。

2　年間予定

期日	内容	対象
4/11（木）	避難訓練（東校と合同）地震を想定 運動場に整列 点呼も東校と合同	全生徒
6/25（火）	防災講座（現役消防士による講座） 講話：救急車両の仕組み がれきからの救助法、運搬法	1年
8/30（金）～ 9/5（木）	災害伝言ダイヤル171訓練	全生徒、全保護者対象
9/2（月）	引き渡し訓練（荒天により延期　年内実施予定）	全生徒、全保護者対象 【全員実施】
9/4（水）	防災学習会（東校と合同　ZOOMにて実施） 講話：防災フェロー伊藤教諭による防災についての話	全生徒
9/10（火） 9/11（水）	救急救命法講座（富士見台分署の消防士による講座） AED使用方法　運搬法　三角巾の使用方法 心肺蘇生法の講習 三角巾の使用方法	2年
10/24（木）	第1回防災学習会（現役消防士による講座） 「救急車の仕組み、救急法」	2年生、全保護者対象 【保護者は希望者のみ】
11/14（木）	第2回防災学習会 「東日本大震災からの教訓」 福島県より語り部さんが来校	全生徒、全保護者対象 【保護者は希望者のみ】

・　C委員

地区でも避難訓練のあり方を見直されている。訓練の訓練になっている。訓練の仕方をいかに本番に近づけるかという視点が必要とされている。

・　A委員

青葉台地区に対して分校ができることは何かあるか。

- C 委員
  青葉台地区（旧　今泉、神戸、）は津波の防災対策の必要性が低いこともあり、防災に対する関心が低い印象を受ける。11 月に地区の防災会議がある。青葉台地区として分校にできることがあるかを議題に出したい。互いに支え合える関係でいられればいい。

- D 委員
  地域の方と防災に取り組むことは、地域とのつながりはもちろんであるが、自分を守る、自分の大切なものを守る、ことにつながる教材になり得る。開校2年目でこれだけつながりがあるのは羨ましく思う。地域と協働した防災の取組をしていってほしい。

- E 委員
  我が子が発災した際の対応を考えると、薬の管理、チェックの必要性を真っ先に考える。発災後の避難や、避難生活をイメージし、環境面では子どもたちの距離感や周りがパニックの状態で対応等、発災時の生徒個々のフローチャートがあるとよいのではないか。

- B 委員
  マイナンバーカードと保険証の紐づけがしてあると、薬の情報がわかり、薬の確保や提供がスムーズであったと聞いている。

- D 委員
  富士東高校の規模、生徒の人数を考えると、生徒一人一人が考えて行動することは必須。広い学区を抱える富士東高校であり、中々コントロールできないう状況が生まれると想定される。教員側が発災時、発災後のことをどれだけ想定できているか、富士東高校としても準備している。避難生活では高校生の力が頼られ、求められる。

- A 委員
  防災教育につながる取組は、その日だけでなく力になっていくために、授業の振り返りなども大切にしながら、つなげていく工夫をしていくとよい。能登地震の避難所での生活の事例の中でも、高校生の力、若い力は非常に求められていた。自分が主体者として生きようとしていく態度、自分に何ができるという姿勢、地域の一員だという意識を持っていろいろな人と関わっていってほしい。

- 校長
  「主体性」を発揮すること、生徒の自信をつけていくが今後必要になっていくと改めて実感した。そして、一人ひとりにとっての主体性や自信は違うという視点を持っていきたい。また、様々な学習や取組の中で異年齢の方との関わりから学ぶことは多い。特に自分より弱い立場の方との関わりの中で生まれる自信もある。富士東分校の幼稚園交流などの取組を活かしていけるとよい。発信力では、富士

東分校の生徒たちならではの「若い視点」を発揮して欲しい。私たちの想像を飛び越える発想が生まれると期待する。いかに生徒たちの自信をつけさせていくか、このことについて引き続き取り組んでいきたい。

＊第３回学校運営協議会は、令和7年1月24日（金）に開催予定